



ポイントの復習

レジデンストラックとビジネストラック

レジデンストラックとビジネストラック

	レジデンストラック		ビジネストラック	
	レベル3	レベル2	レベル3	レベル2
誓約書	○			
本邦活動契約書	-	-	○	○
出国前検査	○	免除	○	○
健康モニタリング	○			
民間医療保険加入	○			
質問票	○			
空港での検査	○	免除	○	免除
スマホの設定	○	△ 推奨	○	
公共交通機関使用	不可			
14日間の待機	個室管理			
不特定との接触	不可			
待機中の外出等	不可		緩和（要計画書記載） 待機施設のみ	
特定者との接触	-	-	緩和（記録が必要）	

ビジネストラック 注意すべきポイント

- **ビジネストラックは14日間の宿泊施設(待機施設)の要件は緩和されていません。**
 - 待機場所は、個室、バス、トイレの個別管理等ができる施設。
(個室の外にキッチンなどの共用スペースがある場合は、利用禁止 → 共用のバストイレも禁止)
→ **3LDでも4LDKでもバストイレが1箇所なら定員は1名**
- **ビジネストラックは宿泊施設と滞在施設以外への移動禁止**
- **ビジネストラックは不特定との接触禁止**
- **ビジネストラックは行動記録と接触者の記録が必要**

注意すべきポイント

■ 誓約書

- **国税庁発行の法人番号**を記載する必要がある。
- **誓約書の原本は、**受入団体が**入国から6週間**保管する必要がある。
- **誓約書には印鑑は不要。**日本政府は自署を求めている。印刷でもOK。 ※但し外国政府は要確認、自署要求される場合も有ります。
- 技能実習生の場合、**監理団体が誓約書に名前**を書いてください。

更なるリスク回避のために

■ その他

- **現地出発前2週間**も隔離してもらいたいのが望ましい。

- 実家へ帰ったり、送別会の開催は3週間前に済ませてもらいましょう。

■ レベル2の国

- **PCR検査**を実施して入国してもらいましょう。
- 入国前検査を実施しなかった場合、入国後にPCR検査を実施しましょう。

技能実習生の受入れは

- ➡ **レジデンストラックで受け入れるのがお勧め**です。ビジネストラックを利用しても、メリットは有りません。
 - **14日間の行動記録、接触者記録を作成しなければならない**
 - **リモートでの講習を実施するのなら宿泊施設から移動する必要がない。**
 - **滞在施設への移動緩和以外に緩和事項がない。**
- ➡ **LINEアプリの毎日の報告は実習生本人ではなく、監理団体職員が全員分を対応してください。**

技能実習生の受入れ・・・

- 現地のPCR検査費用は日本側で負担してください、請求書や海外送金の履歴もきちんと保管しておきましょう。
- 14日間の待機中に入国後講習を実施した場合、その記録をしっかりと取っておきましょう。講習内容記録、受講している写真等。
- リモートであっても講習を実施すれば食費等は実習計画申請通りに自己負担も可能ですが、待機中に講習を実施しない場合は、その生活費食費は全て日本側で負担をしてください。(入国にかかる費用とみなされます)
- 講習中に陽性者が出た場合、監理団体職員にも自宅待機等の指示が出る場合があります。通訳を含めて対応計画は立てておきましょう。

おまけ

- 非常食として、カップ麺等を配布しておくが良い。
- 実習生の持ってくる携帯の充電器やパソコンの電源等のコンセント形状の確認は、母国でしっかり確認してもらって下さい。
- 携帯の充電器、USB電源ケーブルの予備は準備しておくのが良い。
- 宿泊場所のWIFIの設定は、紙に書いて配布が楽です。
- 14日間の守るべきルールは確実に紙に書いて配布しましょう。
- 14日間のスケジュールや宿題を全て準備して配布しておく、何度も説明して何度も質問に答える事は減ります。
- 宿泊施設は可能であればスタッフが一晚使ってみて下さい。
電灯等のスイッチ、その他の物の場所や使い方を聞かれます。
- 体温計は非接触型があれば楽ですが、無ければ各自一つずつ準備をして配布しておく、体調確認の時間が短くて済みます。
- 必要な委任状は、初日に確実にサインしてもらって回収しましょう。
- もし発熱やせき等の症状が出たときの対応手順は事前に決定してスタッフ全員が持っておいてください。
- 出迎え、14日間の監視担当スタッフは、感染拡大防止の観点から可能な限り接触者を減らすように、待機モードで仕事を行いましょう。

おまけ

- マスク、消毒液、手洗いの石鹸、洗濯洗剤は、母国から持参するように指示をすると共に、予備を準備しておきましょう。必ず必要になります。
- ごみの分別回収の指導は待機中リモートでも確実に実施してあげて下さい。(何度も指導する必要がある場合もあります。)
- 初日2日目に余裕があれば、各自が持参した薬を確認して記録しておきましょう。誰かが風邪をひいたり、頭痛、発熱等の場合に、互いに融通する事が可能です。早い対応が可能となります。
- 宿泊施設に到着したら、荷物をすべて開いて、生もの等の確認をしてください。腐敗、異臭の原因となる場合があります。何か持ってきていたら、冷凍庫、冷蔵庫で保管してあげましょう。